

号外！

勝山中学校PTAニュース

平成24年12月18日
勝山中学校 PTA
会長 平井 真奈美

人権学習会『自分の手で幸せをつかめる子どもに』

とてもいいお話でしたので、ぜひ皆さんに号外でお知らせしたいと思います！

11月21日（水） 講師 NPO 法人こらぼネット京都 施設長 伊藤美恵氏
＜参加者＞ 中條校長先生・實川教頭先生・田邊先生 保護者25名
伊藤先生のお話から、子どもの幸せな人生を願い育てていくとき、親として関わる自分の生き方が問われていることに改めて気付かされました。参加者全員が真剣に耳を傾け静かな熱気に包まれた会場の雰囲気、伊藤先生も感激しておられました。皆様ありがとうございました。講演の中から一部をご紹介します。



◇コミュニケーションについて

人は人に反応してもらってはじめて人として存在します。人は人からいないものとして扱われると生きていけません。だからイジメとして“シカト”が有効なのです。

人は人からの反応が欲しくて表現をします。不器用な子は、元々やりたかったことと、やってしまったことが随分ずれてしまっていることがあります。例えば、親からみると「いらんことばかりやっている」子がいます。親はその子を怒ってばかりいます。言い換えると、その人は怒っているときしか子どもに関わっていないということです。子どもは親の反応が欲しいと思っていますが、親は怒るときだけ自分に関わってくれる。だから、怒られるようなことしかしない。子どもにはそうせざるを得ない状況だということです。

人は何かを伝えたいとき、それを言葉や行動という「記号」にかえて表現します。受け取る側はそれを「解釈」し、新たな「記号」を返します。それがコミュニケーションの形ですが、「記号」や「解釈」のそれぞれの段階でズレが生じ、正確に伝わらないことがよくあります。記号化の下手な子には、「いまの表現だとこんな風に受け取れるけど、あってる？」「それって〇〇って言いたかったんじゃないかなって思うけど、どう？」などと投げかけて、その場を離れます。ある程度年齢のいった子には即答を求めないで、1日くらい時間を置くことが大切です。

人の根っこにある、☆人に関わりたい

☆人に喜ばれたい・役に立ちたい

☆優しくされたい

という気持ちをかなえるためにも、子どもには、受け入れられやすい記号化が出来るよう教えてやりたいものです。

◇どこに行っても通用する『品』を身につけさせる

親として子どもにしてやるべき最も大切なことです。

『品』とは、 ☆人との距離のとり方
☆人との関わり方
☆立ち居振る舞いの美しさ
☆物事のとらえ方

です。

内面の美しさが「立ち振る舞いの美しさ」に出てきます。気持ちが穏やかな人は、行動も穏やかです。反対に、行動が気持ちを規制する、とも言えます。物の受け渡しの時に、きちんと体を向けて、両手でしているでしょうか。物を離すのが早くて、必要以上に音を立てていないでしょうか。これらを意識して行動することで、気持ちの落ち着きもできてきます。

物事をなんでも良いようにとらえずに、「何で私ばかり・・・」と思ったり、人のせいにしたり、というふうに被害妄想の強い人は、生きていく上でとても苦労します。

このような『品』は、☆食べているもの

☆吸っている空気

☆見聞きするもの

によってつくられます。

人間は見たものを模倣しようとしみますから、子どもは親の真似をして育っていきます。ですから、親自身がどのように生きているかが大切だということです。



◇自分の今の状況に対して、不平不満を言う人がいますが・・・

けれども結局、今していることは、自分のしたいことであると言えます。本当に嫌だと思っているなら、変えるために真剣に動くはずですよ。もし子どもが、「ほんまはこんなことしたいことないねん。」などと言っていたら、「ほな、やめたら？」と言ってみましょう。

◇子どもが何か問題を抱えたとき

進路についての悩みなど、人生の中ですぐには解決できない問題が出て来ます。そんな時、スッキリしないグチャグチャした状態であっても、それはそのまま置いておき、一日のうちのどこかで仕切り直すタイミングを家庭の中で持つことが大切です。例えばごはんの時間だけはみんな集まりおいしく食べる、など。そして相手につじつまあわせをする時間を与えてあげること。それが出来れば、家庭の中が大きくぶれることはありません。

また、「子どもの悩み」と「親である自分の悩み」をきちんと分けて考えることが大切です。もし、子どもが学校へ行かなくなったとき、子どもは何らかの悩み・しんどさを抱えています。親として、その悩みを理解しつつも、「ご近所の手前や、進学のこともあるし、学校には行って欲しいなあ・・・」という思いも出て来ます。けれどもそれは、親としての悩みなので子どもにそのままぶつけてはいけません。子どものしんどさとそこから派生する自分のしんどさは別のもので、子どもであっても「他者」であるということです。子どもには、親の悩みやしんどさまで抱えられません。

◇人間の本质と、伝承の中で

◇子どもに必要な大人の存在 などのお話もありました。

保護者からの感想です

・私にとって今必要なお話だったと思います。ありがとうございました。記号の解説がんばっているところです。何度か解説できてうれしいこともありました。

・人間の本质がよくわかった気がします。

・すごく楽しい時間でした。もっと聞いていたいと思いました。心にグッとくるお話で、自分のこと、家族のことを考えなおし、今、生きているということ大切にしていきたいなと思いました。

・今日のお話はとても参考になりましたし、反省することばかりでした。まずは自分を見つめなおし子どもに対する接し方など、考え直すことが必要だと思いました。また、相談にうかがってしまうかもしれません。ありがとうございました。

・とてもわかりやすく楽しい時間をすごせました。ありがとうございました。

・伊藤先生の講義を聞いて、子どもに対しての普段の係わり方を思わず反省してしまいました。怒ってばかりの場面や自分の立場で感情的になっている事があると…。記号化のまちがいはないか？と少し考えることを習慣づけるように努力したいと思います。

・自、他の区別をつけて、人と上手に付き合うお話、いろいろな他の人との距離の取り方が言葉として言っていたことが大変わかりやすかったです。また、お話がききたいです。ありがとうございました。

・子どもに対しての考え方（育て方）が楽になりました。大変ためになりました。ありがとうございました。

・久しぶりに真剣に良い話をたくさんお聴きすることができました。中2、高3になる二人の娘の子育てがこれで良かったのかと感じながら過ごす日々でしたが、いろいろと気づく話がありました。まだまだ遅くないかな。自分自身の立ち居振る舞いからもう一度考え直し、自分も育てながら娘たちとかわっていききたいなと思いました。『当たり前身に付いていることは、その人を助ける』がとても印象的でした。ありがとうございました。

・思春期の親子関係に風を吹き込んでくださるお話、ありがたかったです。

・今日は来てお話を聞いてよかったなと思いました。ありがとうございました。

昨夜、下の子どもが落ち込んでいるのをなぐさめていたら、急に中2の娘が、自分の身にあった嫌な話をしはじめたので「空気読んでよ～」と思ってしまいました…。きっと自分もなぐさめてほしくなったんでしょうね。帰ったら、上の子にやさしくしてやりたいと思いました。

・とても身近でわかりやすいお話で良かったです。

・暮らしの中の実体験…良い話を聞いて良かったです。心して実行したいと思いました。

・今後の子どもとのかかわり方のヒントを頂いたように思います。ありがとうございました。

